



2024年10月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年9月11日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 神戸物産

コード番号 3038 URL <https://www.kobebussan.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 沼田 博和

問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部 部長 (氏名) 坂本 匡浩 TEL 079-458-0339

配当支払開始予定日 -

決算補足説明資料作成の有無 : 有 (<https://www.kobebussan.co.jp/ir/news.php>)

決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切り捨て)

1. 2024年10月期第3四半期の連結業績 (2023年11月1日～2024年7月31日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年10月期第3四半期	377,283	11.4	26,640	14.4	21,980	△3.1	14,847	△4.8
2023年10月期第3四半期	338,767	12.9	23,278	6.6	22,694	△4.0	15,590	△2.1

(注) 包括利益2024年10月期第3四半期 15,200百万円 (2.0%) 2023年10月期第3四半期 14,902百万円 (△10.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年10月期第3四半期	67.24	66.80
2023年10月期第3四半期	71.04	70.16

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年10月期第3四半期	224,040	125,927	54.7	554.98
2023年10月期	211,891	114,451	52.7	506.23

(参考) 自己資本 2024年10月期第3四半期 122,610百万円 2023年10月期 111,691百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年10月期	-	0.00	-	22.00	22.00
2024年10月期	-	0.00	-	-	-
2024年10月期 (予想)	-	-	-	23.00	23.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年10月期の連結業績予想 (2023年11月1日～2024年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	498,000	7.9	31,000	0.9	33,000	10.1	21,500	4.6	97.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2024年10月期3Q	273,600,000株	2023年10月期	273,600,000株
② 期末自己株式数	2024年10月期3Q	52,671,455株	2023年10月期	52,968,055株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2024年10月期3Q	220,800,697株	2023年10月期3Q	219,465,181株

(注) 期末自己株式数には、「役員向け株式交付信託」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行 (信託口) が所有する当社株式を含めております (2024年10月期3Q 275,200株、2023年10月期 275,200株)。また、株式会社日本カストディ銀行 (信託口) が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式を含めております (2024年10月期3Q 275,200株、2023年10月期3Q 275,200株)。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 連結経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2023年11月1日～2024年7月31日)における我が国の状況は、経済活動の正常化による人流の活発化、インバウンド需要の回復、所得環境の改善等、景気は緩やかな回復基調で推移しました。

一方、ロシア・ウクライナ問題の長期化や中東情勢の激化、不安定な為替の変動やエネルギーコストの高騰等、依然として先行きが不透明な状況が続いております。

食品スーパー業界におきましては、急激なインフレによる消費者の節約志向の高まり、様々なコスト増加等、厳しい環境が続いております。

このような状況の中、当社グループは「食の製販一体体制」の更なる強化というグループ目標のもと、食品製造工場の生産能力の増強や積極的な商品開発を行い、神戸物産グループ全体の競争力を高めてまいりました。

また、高品質で魅力のある商品をベストプライスで提供できる当社グループの強みをさらに磨き、お客様のニーズをとらえた事業を行ってまいりました。この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績につきましては、売上高は377,283百万円(前年同期比11.4%増)、営業利益は26,640百万円(同14.4%増)、経常利益は21,980百万円(同3.1%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は14,847百万円(同4.8%減)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

①業務スーパー事業

当第3四半期連結累計期間における業務スーパー事業において、国内グループ工場で製造するオリジナル商品と、世界の本物をコンセプトにした自社直輸入品による、魅力あふれるプライベートブランド商品等をベストプライスで販売する「業務スーパー」の出店状況は、出店41店舗、退店18店舗、純増23店舗の結果、総店舗数は1,071店舗となりました。

新規出店の内訳といたしましては、直轄エリア28店舗、地方エリア13店舗であります。出店に関しましては九州地方を中心として全国的に新規出店があり、当連結会計年度の出店計画に対しても順調に進捗しております。

経営成績につきましては、為替の急激な変動や物価上昇による仕入れコストの増加があったものの、価格戦略が功を奏したことや、「業務スーパー」の魅力であるプライベートブランド商品が多くのメディアで取り上げられたことで、業績の拡大が続いております。

この結果、業務スーパー事業における当第3四半期連結累計期間の売上高は363,723百万円(同10.9%増)となりました。

②外食・中食事業

当第3四半期連結累計期間における外食・中食事業において、日本最大級の大型バイキングチェーンである「神戸クック・ワールドビュッフェ」の出店状況は、出店1店舗、退店0店舗、純増1店舗の結果、総店舗数が15店舗となりました。厳選したお肉と店内手作りのデザートを心ゆくまで楽しめる焼肉オーダーバイキングである「プレミアムカルビ」の出店状況は、出店2店舗、退店0店舗、純増2店舗の結果、総店舗数は22店舗となりました。また、日常の食卓の代行をコンセプトとして店内手作り・価格にこだわった惣菜店である「馳走菜(ちそうな)」の出店状況は、出店15店舗、退店3店舗、純増12店舗の結果、総店舗数は全国で126店舗となりました。

「神戸クック・ワールドビュッフェ」につきましては、メニューの改廃等によるお客様満足度の向上に努めたことに加え、ファミリー層の需要も高く、外国人観光客の増加もあり、新型コロナウイルス感染症拡大前の売上水準まで回復しております。

「プレミアムカルビ」につきましては、メディアで紹介される機会も増加し、多くのお客様にご利用いただいております。

「馳走菜(ちそうな)」につきましては、お客様のニーズをとらえたメニュー構成や新メニューの投入で集客力を増しております。加えて、店舗数の大幅な増加もあって売上高を拡大しております。

この結果、外食・中食事業における当第3四半期連結累計期間の売上高は、10,093百万円(同26.3%増)となりました。

③エコ再生エネルギー事業

当第3四半期連結累計期間におけるエコ再生エネルギー事業において、稼働中の発電所と発電量は、太陽光発電所が19カ所で約81.0MW、木質バイオマス発電所が1カ所で約6.2MWとなっており、いずれも順調に稼働しております。引き続き、再生可能エネルギーを活用し、環境に配慮した安全・安心なエネルギーを供給してまいります。

この結果、エコ再生エネルギー事業における当第3四半期連結累計期間の売上高は3,431百万円(同28.3%増)となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産は224,040百万円となり、前連結会計年度末と比較し12,149百万円増加いたしました。主な要因は、流動資産の増加10,704百万円であります。

流動資産の増加の主な要因は、現金及び預金の増加5,096百万円と商品及び製品の増加4,057百万円等であります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は98,113百万円となり、前連結会計年度末と比較し673百万円増加いたしました。内訳は、流動負債の増加3,455百万円と固定負債の減少2,781百万円であります。

流動負債の増加の主な要因は、短期借入金の増加4,787百万円及び未払法人税等の減少2,324百万円であります。

固定負債の減少の主な要因は、長期借入金の減少6,086百万円及びその他(固定負債)の増加2,783百万円であります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は125,927百万円となり、前連結会計年度末と比較し11,475百万円増加いたしました。主な要因は、利益剰余金の増加9,987百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年12月15日に公表いたしました連結業績予想からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	92,590	97,687
売掛金	26,939	26,839
商品及び製品	16,645	20,703
仕掛品	378	387
原材料及び貯蔵品	1,801	1,980
その他	3,303	4,762
貸倒引当金	△17	△13
流動資産合計	141,641	152,346
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	16,186	19,461
機械装置及び運搬具(純額)	22,977	24,588
土地	19,897	19,870
その他(純額)	5,133	1,737
有形固定資産合計	64,195	65,657
無形固定資産	1,509	1,865
投資その他の資産	4,544	4,171
固定資産合計	70,249	71,694
資産合計	211,891	224,040
負債の部		
流動負債		
買掛金	32,231	33,659
短期借入金	1,317	6,105
未払法人税等	4,562	2,237
賞与引当金	473	271
その他	10,473	10,238
流動負債合計	49,057	52,512
固定負債		
長期借入金	37,000	30,913
退職給付に係る負債	688	742
預り保証金	7,589	7,985
資産除去債務	1,672	1,725
役員株式給付引当金	110	130
その他	1,320	4,103
固定負債合計	48,382	45,600
負債合計	97,439	98,113
純資産の部		
株主資本		
資本金	500	500
資本剰余金	12,137	12,668
利益剰余金	108,797	118,785
自己株式	△9,087	△9,039
株主資本合計	112,348	122,914
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27	64
為替換算調整勘定	△684	△368
その他の包括利益累計額合計	△657	△304
新株予約権	2,760	3,316
純資産合計	114,451	125,927
負債純資産合計	211,891	224,040

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年11月1日 至 2023年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年11月1日 至 2024年7月31日)
売上高	338,767	377,283
売上原価	299,658	333,189
売上総利益	39,109	44,093
販売費及び一般管理費	15,830	17,453
営業利益	23,278	26,640
営業外収益		
受取利息	371	384
受取配当金	8	6
受取賃貸料	122	202
為替差益	811	—
補助金収入	113	117
その他	331	318
営業外収益合計	1,759	1,029
営業外費用		
支払利息	46	21
賃貸収入原価	26	22
為替差損	—	626
燃料販売原価	64	62
デリバティブ評価損	2,180	4,918
その他	26	37
営業外費用合計	2,344	5,688
経常利益	22,694	21,980
特別利益		
投資有価証券売却益	5	14
固定資産売却益	3	1
新株予約権戻入益	10	28
特別利益合計	18	44
特別損失		
固定資産除却損	41	151
固定資産売却損	—	0
減損損失	—	81
特別損失合計	41	233
税金等調整前四半期純利益	22,671	21,791
法人税、住民税及び事業税	6,873	6,938
法人税等調整額	207	5
法人税等合計	7,081	6,944
四半期純利益	15,590	14,847
親会社株主に帰属する四半期純利益	15,590	14,847

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年11月1日 至 2023年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年11月1日 至 2024年7月31日)
四半期純利益	15,590	14,847
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	23	36
為替換算調整勘定	△711	315
その他の包括利益合計	△688	352
四半期包括利益	14,902	15,200
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	14,902	15,200

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年11月1日 至 2023年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年11月1日 至 2024年7月31日)
減価償却費	3,764百万円	4,399百万円
のれんの償却額	3百万円	17百万円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年11月1日 至 2023年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	業務 スーパー 事業	外食・中食 事業	エコ再生 エネルギー 事業	計				
収益認識の時期								
一時点で移転される財 又はサービス	325,223	7,929	—	333,153	30	333,183	—	333,183
一定の期間にわたり移転 される財又はサービス	2,844	64	2,675	5,584	—	5,584	—	5,584
顧客との契約から生じる 収益	328,067	7,994	2,675	338,737	30	338,767	—	338,767
売上高								
外部顧客への売上高	328,067	7,994	2,675	338,737	30	338,767	—	338,767
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,546	229	—	3,775	—	3,775	△3,775	—
計	331,614	8,223	2,675	342,512	30	342,543	△3,775	338,767
セグメント利益又は 損失(△)	25,550	360	726	26,637	△33	26,604	△3,325	23,278

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、観光事業等を含んでおります。
 2. 調整額は以下のとおりであります。
 (1) 売上高の調整額は、セグメント間の内部取引消去であります。
 (2) セグメント利益又は損失の調整額△3,325百万円は各報告セグメントに配賦していない全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年11月1日 至 2024年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	業務 スーパー 事業	外食・中食 事業	エコ再生 エネルギー 事業	計				
収益認識の時期								
一時点で移転される財 又はサービス	360,595	10,005	—	370,601	35	370,636	—	370,636
一定の期間にわたり移転 される財又はサービス	3,128	87	3,431	6,647	—	6,647	—	6,647
顧客との契約から生じる 収益	363,723	10,093	3,431	377,248	35	377,283	—	377,283
売上高								
外部顧客への売上高	363,723	10,093	3,431	377,248	35	377,283	—	377,283
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,561	388	—	4,950	—	4,950	△4,950	—
計	368,285	10,481	3,431	382,198	35	382,233	△4,950	377,283
セグメント利益又は 損失(△)	28,593	778	876	30,247	△21	30,226	△3,586	26,640

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、観光事業等を含んでおります。
 2. 調整額は以下のとおりであります。
 (1) 売上高の調整額は、セグメント間の内部取引消去であります。
 (2) セグメント利益又は損失の調整額△3,586百万円は各報告セグメントに配賦していない全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、固定資産の減損損失を81百万円計上しております。当該減損損失の計上額は、「業務スーパー事業」セグメントにおいて81百万円であります。